

みかん

次年度に向けての 園地づくり



果樹林産センター
小杉 真啓

2月になり出荷も後半を迎えます。最後まで高品質なミカンの出荷を心掛けましょう。今月は土づくり・根づくりの大事な時期です。特に今年度については、乾燥などの影響により樹勢の低下が見られます。樹勢回復をすることで隔年結果防止にもつながるので土壌改善に努めましょう。

《貯蔵管理》

貯蔵庫内の環境を温度5〜8℃、湿度85%にすることで着色が進みます。また、労力がかかりますが2週間に一度程度は腐敗果の除去と貯蔵箱の差し替えを行い、貯蔵管理を徹底してください。

《樹勢回復》

令和元年は、夏季の高温乾燥、台風の影響などで樹に負担が掛かりました。寒害による

冬季の落葉があると、着花量を減少させます。寒害対策として、寒冷紗やコモなどで被覆し、落葉防止に努めてください。

また、引き続きちっつ素系液肥の葉面散布と土壌の乾燥防止対策の敷きワラや暖かい日にかん水を行いましょう。

《間伐・縮伐》

密植園は作業効率が低下するだけでなく、着色の遅れや果実品質の低下につながります。効果的な防除も難しくなり病害虫被害の危険が増すので、間伐や縮伐を行ってください。樹齢25〜30年以上になったら思い切って間伐を行いましょ。

3月に入ると注文した苗木の植え付け時期にもなるため、植え穴などの準備も行ってください。

《土づくり》

土づくりの目的は、健全な根（細根）を増やすことで、施肥の吸収効率を高めることです。その結果として枝や葉が充実し、高品質果実の安定生産に繋がります。まずは、園地ごとに土壌分析を行い、園地の状況を把握しましょう。有機物を投入することで、土壌がやわらかくなり、通気性・保水性が向上し、新根が発生しやすい環境となります。

また、ミカン栽培に適した土壌pHは5.5〜6.5とされています。土壌が酸性化してしまうと、根の発根や微生物の活動が抑えられてしまうので土壌改良を行いましょ。

・キノックス 2000kg/10a
・苦土セルカ2号 120kg/10a